

## 平成29年度 第2回窪田空穂記念館運営委員会 会議概要

- 1 日時 平成29年11月16日(木) 午後1時30分～2時45分
- 2 会場 窪田空穂生家
- 3 出席者
  - (1) 委員側  
飯沼秀文委員、折井理智子委員、上條宏之委員、来嶋靖生委員、窪田武夫委員、  
坂口登美子委員、矢島勤氏(笠原幸一委員代理・高綱中学校長) 7人  
※欠席：渡邊正明委員 篠弘委員 2人
  - (2) 市側  
関沢事業担当課長、土屋係長、勝野分館長、小暮主事
- 4 平成29年度中間事業報告
  - (1) 短歌講座について
    - ア 年々人数が減っている。講師の問題か内容の問題かわからないが、短歌界全体が高齢化していることも要因だと思われる。若返りをはかりたい。(委員)
    - イ 著名な先生方に来ていただいているのだから、新しいものや人とドッキングさせると良いのではないか。松本大学の教育学部の学生は感心が高いのか。(委員長)  
→他の学部の学生よりは食いつきが良いので、きちんと歌に触れて、それなりの時間をもてば興味をもってもらえると思う。ゼミの先生も機会をもっていきたいと言っていた。(分館長)
    - ウ 小柳先生の講座が、今まで以上に反響があった。興味を持ってくれた先生たちを活かしていきたい。(委員)
  - (2) 子ども教室について
    - ア 百人一首は冬に限らなくても良いのではないか。(委員)
    - イ 高校によっては百人一首に積極的なところもある。(委員)
  - (3) 企画展について
    - ア 高校の文芸活動が盛んになってきた。(委員長)
    - イ 講演会の聴講者はどのような人たちだったのか。(委員長)
  - (4) 子どもの短歌について
    - ア 応募が減ってきているとはいえ、5,000首でも多い方だと思う。(委員長・委員)
  - (5) 学校との連携について
    - ア 松本大学との連携は新しい。これが定着すると良い。(委員長)
    - イ 地域学習や委員会活動は、恒例行事になっている。6年生と1年生の姉妹学級は新

しい試みだと思う。記念館は、学校から歩いてすぐのところにるので、このような活動も進めていければと思う。(委員)

ウ 「まひる野」との交流は初か。良い試みだと思う。(委員長)

(6) その他

ア 木が伸びていってしまうため、今度お願いしようと思っていた。(委員)

イ 看板を直してもらってよかった。(委員)

ウ デジタル化したものは、来た人に見てもらえるようにしたら良い。(委員長)

エ 生家が素晴らしい場所だということは、若い人たちもわかっていると思うので、古い家にもっと親しみをもって入ってもらいたい。(委員)

5 平成30年度事業計画

(1) 企画展について

ア 特に学校の先生は島秋人に関心が高い。教材にも使われているため、そういったところにお答えできれば良いと思っている。(分館長)

イ 島秋人は良いと思う。前にやったのは数年前で日も経っている。話題性が多く、やる意味があると思う。(委員)

ウ 島秋人を取り上げることはとてもいい事だと思う。新聞によく紹介されることが必要。様々な活動を多くの人に知ってもらおう努力が必要。(委員)

(2) その他

ア 松本全体の博物館構想における空穂記念館の位置づけについて (委員長)

→基幹博物館が平成34年に開館される。分館においてはそれぞれの特徴をもった運営ができるように考えている。ただ、松本市に限らず、少子高齢化が激しい状況で、将来的に施設の数が増え、財源がないとなった時に施設全体を見直す必要がでてくる。博物館本館・分館が施設の機能や特徴に応じて、全体でまるごと博物館として市民の皆さんに学びの場を提供できるように進めていきたい。(課長)

イ 冬日ざしでお茶や俳句を扱うなど、幅広く考えていく必要がある。(委員長)

ウ 百人一首は解釈や歴史と結び付けがちだが、そうすると人は来ない。勝ち負けのゲームだと考えれば集まるのではないか。(委員)

エ 百人一首はクラスによっては盛んなところがある。ピンポイントで持ちかけたら参加者は集まると思う。(委員)